

体育大学女子学生のジェンダー意識・キャリア意識・大学での学習観に対する母親のジェンダー意識の影響

The Effect of Mother's Gender Consciousness on Daughter's Gender Consciousness, Career Consciousness and Conceptions of Learning in University: At Female College of Physical Education

キーワード：母親、娘、ジェンダー意識、キャリア意識、大学

Key Words: mother, daughter, gender consciousness, career consciousness, college

大石 千歳

OISHI Chitose

問題意識および研究目的

体育大学女子学生は、幼少時から専門とするスポーツに熱心に打ち込んでおり、体育大学進学時には漠然と「教員免許を取得したい」といった意識を持っている。しかし中学校・高校の保健体育科教員の雇用状況は厳しく、夢を実現させるのはなかなか困難である。また高橋(2014)にれば、専門の種目のスポーツのコーチは、スポーツクラブ等でのアルバイトや契約社員などが多いが、長年に亘る正規雇用の職にはつながりにくく、経済的には高い収入は望めないことが多い。高橋(2014)は経済産業省(2005)の『特定サービス産業実態調査』調査結果を引用し、全国には約6万4000人あまりのフィットネスクラブ従業員がおり、うちパート・アルバイトが約4万5000人で、平均給与は年間231万1000円としている。ちなみに、その男女比は約1:2である。スポーツ面での高い専門性を雇用や収入に結びつけることは難しさがあり、とりわけ女子にとってその傾向がある。

体育大学でスポーツの専門性を学び、自身の専門種目の練習を積んだことを将来の社会的・職業的自立にどう結びつけるのかを考える際、女子学生は

雇用とジェンダーの問題を避けて通れなくなる。専門の種目のコーチは、自分が一家の大黒柱となって家族全体の家計を支えるほどの収入をもたらさないかもしれない。しかし女子は、結婚をして家事や育児に支障を来たさない範囲で、より明確にいえば夫の扶養家族でいられる範囲内で、家計の補助的な額の収入を得ることを目指す人もいであろう。国立社会保障・人口問題研究所(2005)によれば、未婚女性の理想のライフスタイルは、結婚後継続就業が30%、専業主婦19%、再就職コース33%であったという。

このような社会状況において、体育大学の女子学生の場合、結婚するまで、子どもが生まれるまでは、自分の好きな競技で少しアルバイト収入があればよいと考えたりする。子どもが少し大きくなってからも、スポーツに関わるアルバイトができればよいと考えたりする。そう考えた場合、在学中に就職活動を熱心にはしなかったり、就職が決まらないまま卒業してしまったり、卒業近くまで就職活動よりも部活動を優先することにつながりかねない。しかしこのような考え方は、これからの時代を生きる我が国の女性のライフプランとしては、リスクを伴うものである。

女性が専業主婦になって無収入となる、もしくは家計の補助的な収入を得るという生活モデルは、夫が余裕をもって一家を養えるほどの収入を定年まで得続けられる見込みが高い場合のみ、うまく機能する。山田・白河(2008)が紹介している2002年度実施の調査結果によると、東京都の婚活(結婚相手を探す活動)中の25～34歳の女性のうち39.2%が、結婚相手に望む年収を600万円以上としていたという。結婚後の共働きの難しさを考え、結婚生活に必要な費用から逆算して、男性に望む収入がその額になるのだという。しかしそれだけの収入を得ている25～34歳の未婚男性は、3.5%しかいないのだという。そこで山田・白河(2008)は、女性に結婚相手の年収への希望水準を下げ、結婚後は共働きをすることを勧めている。

今日の女子大学生の母親たちの世代は、性別役割分業意識が浸透した時代に結婚をした世代である。厚生労働省(2013)『厚生労働白書2013年度版』によれば、1980年には専業主婦世帯が1114万世帯、共働き世帯が614万世帯であったが、1990年代に両者が逆転し、2010年では専業主婦世帯が797万世帯、共働き世帯が1012万世帯である。女子大学としては、学生に「お母さんの世代のような生き方は望めない時代になった」ということをまず知ってもらい、どんな結婚や家庭生活をイメージする人も、将来何があるかはわからないので、経済的に自立する力を身につけるよう、人生設計を真剣に考えて将来に備えることを教える必要があるといえる。そのためには、学生のジェンダーに対する考え方や、それが形成される際に影響を与えたであろう母親の生き方や働き方、価値観が、学生の職業やキャリアおよび人生に対する考え方とどんな関連をもつかを検討することが、極めて重要である。

スポーツの世界に話を戻すと、スポーツ界では女性の指導者の少なさが問題となっている。中学校・高校の部活動では男子・女子が同様に当該の競技に取り組んでいても、実業団の選手、監督や指導者、競技団体の幹部などとなると、女性の割合がどんどん減少する。順天堂大学マルチサポート事業(2013)の『女性アスリート戦略的強化支援方策レ

ポート』によれば、2011年度にJOC加盟競技団体を対象に行った調査の結果、競技団体の会長、副会長、常務理事、専務理事、理事等、役員は9割以上が男性であった。しかし2012年のロンドンオリンピックに参加した女子選手156名のうち、4割以上の選手が引退後指導者になることを希望しているとのことである。女性がどう働くかというキャリアプランの問題は、スポーツ界での女性の地位の問題としても重要であるといえる。スポーツ界での女性の地位が向上すれば、スポーツの専門性を生かした仕事に女性が就ける機会も拡大していけると考えられ、体育大学女子学生のより恵まれたキャリア形成が可能になっていくと考えられる。

上記の問題意識をまとめると、本研究の目的は以下の2点である。

1. 体育大学女子学生のアスリートとしてのアイデンティティのあり方、ジェンダー意識、キャリア意識、大学進学の原因、大学での学習についての考え方を尋ねる。
2. 1に対する母親のジェンダー意識(特に性別役割分業意識)の影響を検討する。

方法

本研究倫理審査委員会の審査を経て、平成27年7月に本学大学体育学部3年生の教職科目「教育心理学」の受講者254名を対象に、後述の内容の質問紙調査を行った。

質問紙の構成

フェイスシート：学年、年齢、現在学内運動部に入っているか(はい・いいえ)を尋ねた。本調査では、母親や家族のことなどを尋ねる内容を含むため、プライバシー保護の観点から、運動部の種別については問わないこととした。

スポーツマン的同一性尺度：高見・岸・中込(1990)による34項目からなる心理尺度を実施した。本研究では、高見・岸・中込(1990)における因子分析で負荷量が.50以上ある項目を採用して19項目(5件法)で実施した。各下位尺度は、「自己感覚」

「独自性」「自己受容」「对人的役割期待」「安定性」「目的志向性」「対人関係」の7つである(因子負荷量に基づく項目の選択であるため、各因子に属する項目は同数ではない)。

大学進学理由尺度：三保・清水(2011)による尺度であるが、4つの下位尺度(「勉学志向」「正課外重視」「受験ランク」「周囲の評価)」に関して、因子負荷量の高いものから3項目ずつを選択し、計12項目で実施した(4件法)。

大学での学習観尺度：三保・清水(2011)による尺度である。この尺度も、4つの下位尺度(「主体的学習」「自己成長」「単位取得」「受身)」に関して、因子負荷量の高いものから3項目ずつを選択し、計12項目で実施した(4件法)。

大学生のキャリア選択に関する質問項目(以下、キャリア意識とする)：安達(2004)に基づき、3つの要素(「適職信仰」「受身」「やりたいこと志向)」のそれぞれについて、平均値の高いほうから5項目ずつを採用し、計15項目で実施した(5件法)。

平等主義的性役割態度：鈴木(1994)のSESRA-S(平等主義的性役割態度短縮版)の15項目に、鈴木(1994)の因子分析における第2因子に属する5項目を加え、計20項目で実施した(5件法)。SESRA-Sは1因子構造で「個人レベルにおける男女平等」を志向する態度を測定する尺度であるが、SESRA-Sに組み込まれなかった第2因子は「社会レベルにおける男女平等」を志向する態度を測定するものであった。本研究の目的は、女子大学生が将来の職業や生き方を決める際に影響する要因を検討することである。そのため、個人としての女性の生き方だけでなく、社会の中で女性がどのような位置づけにあることが望ましいかという問題への態度も、尋ねておくことが重要と考えたためである。

将来のキャリア(職業や人生)を考える際に参考にする人物とその理由：スポーツ選手、芸能人、母親、父親、姉、兄、祖父母、親戚(おじ、おば、いとこ等)、先輩、先生の選択肢から1つを選ぶとともに、その人を選んだ理由を自由記述で記載した。

将来希望する働き方：ずっと専業主婦、子どもが大きくなったらパート、子どもが大きくなったらフルタ

イム就労、子育てをしながらパート、子育てをしながらフルタイム就労、子どもをもたないでパート、子どもをもたないでフルタイム就労、結婚しないでフルタイム就労の選択肢から1つを選ぶとともに、それを選んだ理由を自由記述で記載した。なおこの変数については、紙幅の関係上、本稿では結果の紹介を割愛する。

母親の就労状況：ずっと専業主婦、子どもが大きくなったらパート、子どもが大きくなったらフルタイム就労、子育てをしながらパート、子育てをしながらフルタイム就労から1つを選んでもらった。

父母の家事分担：小林(2013)におけるNHK放送文化研究所が行った世論調査のうち、「家事分担」の6項目(洗たく、自宅での簡単な修理、家族が病気のときの世話、食料や日用品の買い物、そうじ、食事のしたく)に、幼児(就学前)の世話、小学生の子どもの世話、中高生の子どもの世話を加えた計10項目について、いつもお父さん、だいたいお父さん、父母同じくらい、だいたいお母さん、いつもお母さん、その他の選択肢から1つを選んでもらった。現在母親と同居していない人や母親を亡くしている人は「一緒に暮らしていた頃の母親」について答えてもらうよう伝えた。父母以外の人为主として行っている場合には「その他」を選択してもらった。なお、答えたくないもしくは答えるのが困難な質問には、答えなくてよいことも伝えた。なおこの変数については、紙幅の関係上、本稿では結果の紹介を割愛する。

母親のジェンダー意識：小林(2013)のNHK放送文化研究所の調査のうち「女性の仕事と家庭」に関する5項目と、「家庭内の役割分担」に関する2項目の計7項目について尋ねた(5件法)。

結果および考察

分析指標の作成

各指標に対して、先行研究に想定されている因子構造が再現されるか確認するために、改めて因子分析を行い、分析指標を作成した。各分析指標の平均値(SD)をまとめて表1に示した。

スポーツマン的同一性：主因子法・バリマックス回転による因子分析の結果、競技志向、部の一員、

自己定義、充実、周囲の期待の5因子が抽出された。

表1. 各分析指標の平均値 (SD)

	度数	平均値	(SD)		度数	平均値	(SD)
スポーツマン的同一性				キャリア意識			
競技志向	244	3.88	(.63)	やりたいこと志向	252	4.15	(.61)
部の一員	246	3.69	(.81)	状況次第	252	3.23	(.82)
自己定義	252	3.65	(.79)	ビッグ野望	252	3.58	(.77)
充実	246	3.38	(.84)	逃避	252	2.56	(.94)
周囲の期待	251	2.98	(.88)	学生本人のジェンダー意識			
大学進学理由				SESRA 平等	250	4.03	(.64)
遊び	246	2.01	(.73)	SESRA 伝統	236	2.40	(.64)
評判	245	1.98	(.73)	母親のジェンダー意識			
自分レベル	253	2.36	(.84)	母伝統志向	231	2.67	(.90)
学び	252	3.20	(.71)	母平等志向	232	3.76	(.70)
大学学習観							
将来のため	250	3.42	(.51)				
卒業のため	252	3.06	(.69)				
わずらわしい	251	2.28	(.73)				

表2. スポーツマン的同一性に関する因子分析結果

	競技志向	部の一員	自己定義	充実	周囲の期待	共通性
1. スポーツ領域での自分はまさしく本当の自分である	.335	.148	.609	.257	.119	.585
2. 私は自分の種目に対する考えを明確に持っている	.496	.156	.548	.183	-.011	.604
3. スポーツに関しては私は十分に自分を信頼している	.193	.059	.640	.150	.235	.529
4. 私は自分の部内での立場を自覚している	.194	.557	.393	.059	.028	.507
5. 私は自分の競技に対する目標に向かって前進している	.576	.187	.383	.128	-.077	.535
6. 競技を通してよい友人を持っている	.456	.224	.211	.203	-.003	.344
7. なぜ競技を行なっているのか分からなくなることがある (逆)	-.009	-.048	.094	.463	.129	.242
8. 必要ならばチームのなかで自分の考えを主張できる	.425	.299	.036	-.011	.146	.293
9. 上達するために、自分で工夫して練習している	.675	.195	.218	-.092	.029	.550
10. スランプになっても、それを克服するために意欲的に取り組む	.807	.106	.099	-.018	.140	.692
11. 私は部に自分なりに貢献している	.159	.757	.054	.007	.257	.667
12. 私はずっと自分の意志で競技をやってきた	.431	.185	.163	.309	.057	.345
13. 私は自分の部内での役割を理解している	.257	.855	.058	.134	-.028	.820
14. 私は自分が部の一員であると強く思う	.271	.751	.102	.172	.029	.678
15. 部の中で私は一人前に扱ってもらえない (逆)	.010	.114	.087	.372	-.003	.159
16. 私の競技に対する態度は一貫している	.346	.240	.183	.194	.124	.264
17. スポーツを行なっても充実感を感じない (逆)	.269	.104	.064	.697	-.139	.592
18. 私は周囲の人達が期待していることに応えることができる	.158	.178	.204	.048	.763	.683
19. 自分のスポーツに対する理想を実現しようという希望がある	.609	.168	.174	.246	.074	.495
累積寄与率 (%)	31.438	38.743	43.596	47.906	50.453	

* 主因子法バリマックス回転

** (逆) は逆転項目であり、得点を逆転して集計した

*** 共通性は因子抽出後の値

大学進学理由：主因子法・バリマックス回転による因子分析の結果、遊び、評判、自分レベル、学びの4因子が抽出された。

大学学習観：主因子法・バリマックス回転による因子分析の結果、将来のため、卒業のため、わずらわしいの3因子が抽出された。

表3. 大学進学理由に関する因子分析結果

	遊び	評判	学び	自分 レベル	共通性
1. 専門知識を深めたいから	-.072	.011	.746	.065	.567
2. 大学で遊びたいから	.785	.075	-.069	.083	.634
3. 自分の学力に合っていたから	.179	.138	.142	.927	.930
4. 大学の評判が良いから	.110	.583	.207	.280	.474
5. 学びたいことがあるから	-.068	.081	.864	-.021	.758
6. 遊ぶ時間が欲しいから	.888	.171	-.075	.105	.834
7. 自分の成績に合っていたから	.233	.241	.026	.734	.651
8. メディアなどでよく紹介される大学だから	.261	.815	.062	.147	.758
9. 興味のある分野を深く掘り下げたいから	.054	.188	.631	.119	.451
10. 大学生らしい自由気ままな生活がしたいから	.855	.186	.021	.209	.810
11. 入試の難易度を考慮したから	.409	.247	.040	.244	.289
12. 知名度が高い大学だから	.146	.835	.086	.075	.731
累積寄与率 (%)	32.464	49.176	57.552	65.702	

* 主因子法バリマックス回転

** 共通性は因子抽出後の値

表4. 大学での学習観に関する因子分析結果

	将来の ため	わずら わしい	卒業の ため	共通性
1. 自分から進んでやるものである	.659	.032	-.125	.451
2. 社会に出るために大事なものである	.692	.012	.144	.500
3. 卒業するためのものである	.061	.272	.766	.665
4. わずらわしいものである	-.127	.634	.114	.431
5. 自ら取り組んでいくものである	.826	-.085	-.028	.690
6. 将来につなげるためのものである	.784	-.183	.234	.704
7. 卒業に必要なものである	.317	.128	.714	.627
8. 面倒なものである	-.047	.795	.214	.681
9. 自分から学んでいくものである	.799	-.099	.117	.662
10. 将来に活かすためのものである	.781	-.156	.245	.695
11. 単位のためのものである	.003	.344	.628	.513
12. 嫌なものである	-.076	.744	.282	.638
累積寄与率 (%)	32.056	54.558	60.461	

* 主因子法バリマックス回転

** 共通性は因子抽出後の値

キャリア意識：主因子法・バリマックス回転による因子分析の結果、やりたいこと志向、状況次第、ビッグ野望、逃避の4因子が抽出された。

家事分担（家庭内での母親の負担度）：この質問項目は、家族構成や生活実態による結果への影響が大きいため、母親の家事負担の大きさが母親の性役割観を反映しているとはいえない。たとえば、ひとり親世帯の母親は家事の大半を自分で担っている状況であるが、そのことと母親自身の価値観としての性役割観は独立かもしれないからである。そこでこの質問項目は実態把握の目的のみで使用し、本研究で行う間隔尺度による変数としての分析には含めないことと

した。

学生本人のジェンダー意識（SESRA-Sと、鈴木（1994）にある第2因子に属する項目）：主因子法・バリマックス回転による因子分析の結果では、固有値1.0以上の基準では5因子が抽出された。しかし、鈴木（1994）の原尺度の解釈との整合性から、スクリープロットに基づいた2因子解による解釈を採用することとし、各因子をSESRA平等、SESRA伝統とした。

母親のジェンダー意識：主因子法・バリマックス回転による因子分析の結果、母伝統、母平等の2因子が抽出された。

表5. キャリア意識に関する因子分析結果

	やりたい こと志向	状況次第	ビッグ 野望	逃避	共通性
1. 自分のやりたい事を実現しようという野心がある	.413	-.161	.459	-.188	.443
2. 将来どうなるかは、そのときの流れだと思う	.021	.707	-.094	.161	.535
3. 自分の好きな事が出来る環境にいたい	.679	.129	.089	-.212	.531
4. まだ自分自身も気付いていない才能があると思う	.116	.157	.468	-.081	.264
5. 将来はなるようになるんだと思う	-.036	.769	.021	.064	.597
6. 将来は好きな事を仕事にしたい	.645	-.132	.094	-.280	.521
7. 将来、何か大きなチャンスがめぐって来るような気がする	.125	.048	.781	.104	.639
8. 将来の仕事は何とかなると思う	-.115	.562	.372	.194	.505
9. 仕事では自分らしさを大切にしたい	.558	-.019	.270	.043	.386
10. 将来、何か大きな事を成し遂げようと思っている	.268	-.089	.683	.095	.555
11. 将来のために今から行動をおこすのは面倒くさい	-.235	.363	-.011	.414	.359
12. 進路選択でもっとも優先するのは、自分がやりたい事である	.604	.099	.140	.280	.473
13. 夢を追い求めて駄目ならば、その時に考えればいい	.312	.404	.129	.346	.397
14. あまり先のことは考えない	.070	.376	.005	.555	.455
15. やりたい事にとことんこだわりを持ちたい	.611	-.125	.170	.234	.473
累積寄与率 (%)	20.809	37.100	43.947	47.556	

* 主因子法バリマックス回転

** 共通性は因子抽出後の値

表6. 学生本人のジェンダー意識(性役割観)に関するSESRA-Sと鈴木(1994)第2因子項目による因子分析結果

	SESRA 平等	SESRA 伝統	共通性
1. 女性が社会的地位や賃金の高い職業を持つと結婚するのがむずかしくなるから、そういう職業をもたないほうがよい	-.108	.516	.278
2. 結婚生活の重要事項は夫が決めるべきである	-.253	.532	.347
3. 主婦が働くとき夫をないがしろにしがちで、夫婦関係にひびがはいりやすい	-.095	.576	.341
4. 女性の居るべき場所は家庭であり、男性の居るべき場所は職場である	-.221	.735	.589
5. 主婦が仕事をすると、家族の負担が重くなるのでよくない	-.139	.665	.462
6. 結婚後、妻は必ずしも夫の姓を名乗る必要はなく、旧姓で通してもよい	.161	-.075	.032
7. 家事は男女の共同作業となるべきである	.517	-.247	.329
8. 子育ては女性にとって一番大切なキャリアである	.201	.360	.170
9. 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てることが非常に大切である	.027	.502	.253
10. 娘は将来主婦に、息子は職業人になることを想定して育てるべきである	-.247	.632	.460
11. 女性は家事や育児をしなければならないから、フルタイムで働くよりパートタイムで働いたほうがよい	-.051	.699	.492
12. 女性の人生において、妻であり母であることも大事だが、仕事をするのもそれと同じくらい重要である	.549	-.164	.329
13. 女性は子どもが生まれても、仕事を続けたほうがよい	.392	-.047	.156
14. 経済的に不自由でなければ、女性は働かなくてもよい	-.057	.436	.193
15. 女性は家事や育児をしなければならないから、あまり責任の重い、競争の激しい仕事をしないほうがよい	-.094	.624	.399
16. 女性であるという理由だけで仕事上のチャンスを奪ってはいけない	.545	-.020	.297
17. 将来は、女性が男性と完全に平等の仕事内容、賃金、昇進を得られるようになることが望ましい	.755	-.136	.589
18. 女性が社会に出て働けば、社会の進歩や発展にとってもプラスになることが多い	.831	-.004	.690
19. 男性と平等になるために、女性が自立の意識をもって地位向上をめざすべきである	.821	-.024	.675
20. 家庭や社会で、男女平等の権利と義務をもっと強調すべきだ	.777	-.026	.604
累積寄与率	24.671	38.415	

* 主因子法バリマックス回転

** 項目6は、どちらの因子への負荷量も低かったため集計からは削除した

*** 共通性は因子抽出後の値

表7. 母親のジェンダー意識(性役割観)に関する 因子分析結果

	母伝統 志向	母平等 志向	共通性
1. 母親が外で働いていても、働いていない母親と同じように、温かく、しっかりした母子の関係はつくれる	-.234	.334	.166
2. 母親が外で働いていると、小学校入学前の子どもは精神的に傷つくようだ	.771	-.040	.596
3. 母親がフルタイムで働いていると、家庭生活は損なわれるものだ	.853	-.077	.734
4. 仕事を持つのはいいことだが、女性の多くが本当に望んでいるのは家庭と子どもだ	.596	.196	.393
5. 主婦として家事をすることも、働いて収入を得ることも、同じように充実したものだ	.078	.739	.552
6. 男性も女性も家計のために収入を得るようにしなければならない	.106	.579	.346
7. 男性の仕事は収入を得ること、女性の仕事は家庭と家族の面倒をみることだ	.538	.001	.289
累積寄与率 (%)	29.178	43.961	

* 主因子法バリマックス回転

** 共通性は因子抽出後の値

仮説の検証

分析指標相互の単相関の分析 まず、仮説検証のためのモデルを構成するため、分析指標相互の相関係数を算出した(表8)。指標相互の単相関についてすべて言及すると結果が膨大になるため、本研究の目的に沿って、学生本人のジェンダー意識を軸とした以下の1~5の観点に基づいて検討した。

1. 母のジェンダー意識と娘(学生本人)のジェンダー意識の関連：

「母伝統志向」は、娘のジェンダー意識のうち「SESRA伝統」と正の相関を示した($r=.555, p<.001$)。一方で「母平等志向」は、娘の「SESRA平等」と正の相関を示した($r=.253, p<.001$)。母のジェンダー意識は娘のジェンダー意識に受け継がれることが示され、とりわけ伝統的性役割観に関してその傾向がより顕著といえた。

2. 学生本人のジェンダー意識とキャリア意識の関連：

「SESRA平等」は、キャリア意識のうち「やりたいこと志向」「ビッグ野望」と正の相関を示し(順に $r=.452, p<.01$; $r=.274, p<.01$)、「逃避」と負の相関を求めた($r=-.193, p<.01$)。男女は平等であるべきという平等主義的性役割観を持つ学生ほど、将来のキャリア選択に関してはやりたいことの追求を重視し、大きな野望を持ち、逃避はしない傾向があることがわかった。一方で「SESRA伝統」は、キャリア意識のうち「状況次第」および「逃避」と正の相関を示した(順に $r=.221, p<.01$; $r=.329, p<.01$)。男女には違いがあり、同じ立場ではないと考える学生ほど、将来のキャリア意識に関してはその時々状況の影響を受けるものと捉えており、学生である今のうちから考えておく必然性を感じにくいものと考えられる。伝統的な性役割観は、「男は仕事・女は家庭」という価値観に基づいたものであるため、職業生活は結婚するまでの短い期間のことであると考えているのかもしれない。

3. キャリア意識と大学学習観の関連：

「やりたいこと志向」が高いほど、大学学習観のうち「将来のため」「卒業のため」と正の相関がみられた(順に $r=.439, p<.01$; $r=.172, p<.01$)。将来やりたい仕事やなりたいたいものがあれば、その将来の夢を実

現するために大学で学んでいるという意識を持つのは、ある意味当然である。ビッグ野望も、将来のためと正の相関を示した($r=.281, p<.01$)。しかし、キャリア意識のうち「状況次第」は、大学学習観のうち「わずらわしい」「卒業のため」と正の相関を示した(順に $r=.235, p<.05$; $r=.189, p<.01$)。「逃避」は、「わずらわしい」とは正の相関($r=.325, p<.01$)、「将来のため」とは負の相関を示した($r=-.282, p<.01$)。将来の職業的なキャリアに対して考えることから逃げていたり、その時々状況に大きく左右されるものと考えていると、大学で学ぶことに意義を見出しにくい傾向が示された。

4. キャリア意識と大学進学理由の関連：

学生本人のジェンダー意識のうち「SESRA平等」は、大学進学理由のうち「学び」とは正の相関($r=.307, p<.01$)、「遊び」とは負の相関を示した($r=-.155, p<.05$)。男女平等という性役割観を持つ学生にとって、大学に進学したのは勉強をするためであり、遊ぶためではないということである。一方「SESRA伝統」は、「遊び」「評判」「自分レベル」と正の相関を示した(順に $r=.296, p<.01$; $r=.352, p<.01$; $r=.155, p<.05$)。伝統的性役割観を持つ学生は、大学への進学はキャンパスライフを楽しむためであったり、大学の評判に基づいた理由であったり、入学の難易度が自分と合っているといった理由であることがわかった。いずれ家庭に入って専業主婦となることを想定している学生は、大学への進学も、特に学びたいことがあるといった理由ではないことがわかる。

5. スポーツマン的同一性と他の分析指標との関連：

「SESRA平等」は、スポーツマン的同一性のうちの「競技志向」と正の相関を示した($r=.220, p<.01$)。「SESRA伝統」は、「周囲の期待」「自己定義」と正の相関を示した(順に $r=.196, p<.01$; $r=.157, p<.05$)。スポーツマン的同一性と学生本人のジェンダー意識とは、それほど多くの関連があったわけではなかった。

表8. 分析指標相互の相関分析

	母と学生本人のジェンダー意識				キャリア意識				大学学習観			大学進学理由				スポーツマン的同一性				
	母平等志向	母伝統志向	SESRA 平等	SESRA 伝統	やりたいこと志向	状況次第	ビッグ野望	逃避	将来のため	卒業のため	わずらわしい	遊び	評判	自分レベル	学び	競技志向	部の一員	自己定義	充実	周囲の期待
母平等志向		-.013	.253**	.038	.149*	.057	.161*	-.009	.094	.056	.062	-.054	.034	-.046	.048	.022	.069	-.036	-.118	.049
母伝統志向			-.123	.555**	-.032	.156*	.084	.272**	-.111	.039	.213**	.273**	.204**	.076	-.137*	.007	-.009	.096	-.097	.134*
SESRA 平等				-.234**	.452**	-.052	.274**	-.193**	.488**	.062	-.067	-.155*	-.114	-.043	.307**	.220**	.098	.051	.090	-.020
SESRA 伝統					.000	.221**	.099	.329**	-.235**	.157*	.167*	.296**	.352**	.155*	-.073	.048	.053	.157*	-.097	.196**
やりたいこと志向						.097	.439**	-.053	.439**	.172**	-.032	-.096	.016	-.070	.277**	.288**	.092	.213**	.187**	.018
状況次第							.119	.480**	-.106	.189**	.235**	.322**	.202**	.244**	-.024	-.082	-.096	-.024	-.000	.071
ビッグ野望								-.032	.281**	.100	-.052	.050	.179**	.095	.244**	.211**	.178**	.270**	.032	.190**
逃避									-.282**	.143*	.325**	.303**	.224**	.127*	-.044	-.131*	-.104	-.030	-.052	.060
将来のため										.201**	-.144*	-.125	-.078	.014	.520**	.329**	.191**	.180**	.208**	-.045
卒業のため											.431**	.165**	.027	.180**	.049	.101	.099	.044	.061	.048
わずらわしい												.296**	.088	.159*	-.083	-.134*	-.139*	-.094	-.139*	.044
遊び													.388**	.413**	-.007	-.126	-.059	.004	-.088	.146*
評判														.402**	.231**	.035	.106	.185*	-.068	.192**
自分レベル															.157*	-.000	.065	.143*	.056	.188**
学び																.280**	.170**	.213**	.197**	.020
競技志向																.552**	.647**	.265**	.307**	
部の一員																	.423**	.193**	.331**	
自己定義																		.307**	.359**	
充実																				.106
周囲の期待																				

**、相関係数は1%水準で有意(両側)。

*、相関係数は5%水準で有意(両側)。

パス解析 各分析指標の単相関に関する上記1～5の結果をふまえて、以下の①～④のパス解析を行った。

①母のジェンダー意識から娘のジェンダー意識を経たキャリア意識や大学学習観への影響

母のジェンダー意識が娘(学生本人)のジェンダー意識に影響を与え、本人のジェンダー意識がキャリア意識に影響を与え、ひいては大学での学習観に影響を与えるというモデルを仮定し、ステップワイズ型の重回帰分析によるパス解析を行った(図1)¹。

「母平等」は、本人の「SESRA平等」を高め($\beta=.255, p<.001$)、「母伝統」は本人の「SESRA伝統」を高めていた($\beta=.555, p<.001$)。母親が伝統的な性役割観を持っているほど、娘も伝統的な性役割観を持つようになり、母親が平等主義的な性役割観を持つほど、娘も平等主義的な性役割観を持つようになることが、明確に示された。女子学生が自分の将来の職業を初めとするキャリアに関して意識を形成する際、最も近くにいる接触頻度も高い母親が、

ロールモデルとして大きな役割を担っていることが明らかになった。

「SESRA平等」は、キャリア意識における「やりたいこと志向」を高め($\beta=.419, p<.001$)、「ビッグ野望」を高め($\beta=.269, p<.001$)、また大学での学習観における「将来のため」を高めてもいた($\beta=.329, p<.001$)。性役割観に関して男女平等の意識を持っている学生ほど、将来の職業に関しては、やりたいことを追求し、大きな野望を持つ傾向があり、大学での学習はそのような将来の活躍に備えてのものであるという意識を持っていることが明らかにされた。

一方で「SESRA伝統」は、「ビッグ野望」にも少しの影響を及ぼしてはいたが($\beta=.170, p<.05$)、キャリア意識における「逃避」($\beta=.359, p<.001$)および「状況次第」($\beta=.247, p<.05$)の傾向を高めていた。また、大学での学習観のうち「卒業のため」を高めてもいた($\beta=.158, p<.05$)。伝統的な性役割観を持つ女子学生は、自分の将来の職業やキャリアに関しては、状況次第という認識を持ち、積極的に考えること

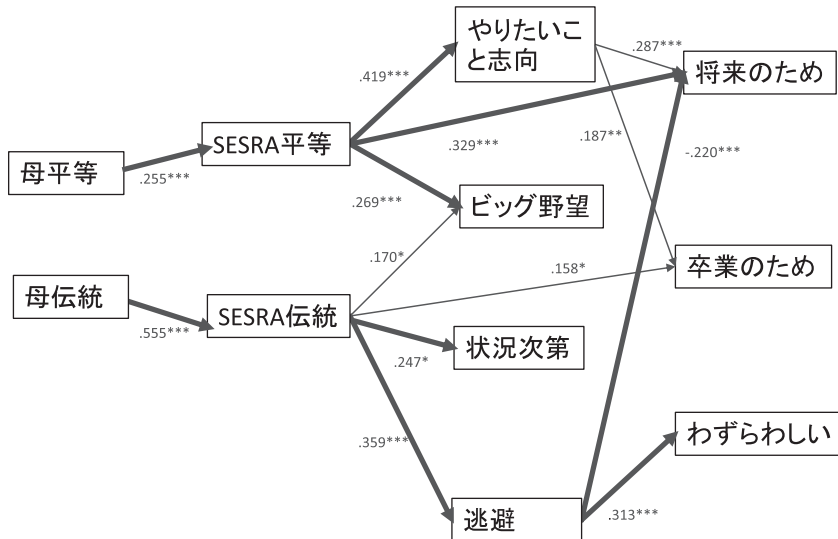


図1. 母と本人のジェンダー意識・キャリア意識・大学学習観に関するパス図

¹ 近年心理学の領域では、モデルを仮定しての仮説の検証に関しては、AMOSによる共分散構造分析の一環としてのパス解析を用いることが多くなっている。しかしAMOSでは、欠損値を含むデータが存在するとエラーが生じて分析を行うことができないため、欠損値を含むデータをすべて削除したり、欠損値に何らかの値を便宜的に代入しての分析を行うことになる。本研究の内容は、学生本人の将来のキャリアやジェンダー意識、母のジェンダー意識、家庭での家事分担など、非常に多様性を含みかつ回答を強制すべきでない内容の質問が多い。また、沢山の質問項目を含んだ調査であるため、どこかの質問に欠損値を含むデータが多くなりがちである。このような状況で無理にAMOSを用いることは、却って結果の正確性を歪めることが懸念された。そこで本研究では、従来のステップワイズ型重回帰分析を用いたパス解析を行うこととした。

を避ける傾向があることがわかった。伝統的な性役割観では、女性は結婚したら家庭に入って専業主婦となり、夫や子どもや婚家のために活動するのがよしとされる。その意味で、女性の人生は配偶者の選択によって大きく様相が変わることになり、配偶者も決定していないうちに将来の生活を予測することは非常に難しいことになる。伝統的な性役割観を持っている学生は、どんな人と結婚するかもわからないので、将来のキャリアといわれても今は考えようがない、と思い、キャリア意識においては状況次第、および逃避的傾向が高くなるのかもしれない。ただし、将来家庭に入るとしても大学は卒業しておいたほうがよいと考えるためか、大学での学習は卒業のためという意識を持っているようである。

やりたいこと志向は、大学での学習観のうち「将来のため」を高め ($\beta=.287, p<.01$)、「卒業のため」を高めていた ($\beta=.187, p<.01$)。

なお、キャリアに関する「逃避」は、大学学習観における「わずらわしい」の要因を高めており ($\beta=.313, p<.001$)、また「将来のため」の要因を低めていた ($\beta=-.220, p<.001$)。

以上のことから、以下の2つのモデルが成立するといえた。

母が平等主義的な性役割観を持っていると娘も平

等主義的な性役割観を持つようになり、将来のキャリアを考える際には自分のやりたいことを追求しようと考え、そのために大学はきちんと卒業し、大学では将来のためになるよう学ぼうという意識を持つ。

母が伝統主義的な性役割観を持っていると娘も伝統的な性役割観を持つようになり、将来は専業主婦になって家庭に入る前提で、キャリアに関しては状況次第と考えたり、逃避的な考えを持ったりするといえる。またそのことによって、大学での学習をわずらわしいものと思ったり、自分の将来のためにはならないものと思ったりする。

本来女性の生き方に正解・不正解はない。しかしこと大学での学習という点では、伝統主義的な性役割観を持つ学生やその保護者は、大学での学習を将来にどう役立てたいかをより明確にすることが、大学生生活をより有意義なものにするといえるだろう。

②母のジェンダー意識から娘のジェンダー意識を経たキャリア意識や大学進学理由への影響

次に、母のジェンダー意識が娘(学生本人)のジェンダー意識に影響を与え、本人のジェンダー意識がキャリア意識に影響を与え、ひいては大学進学理由に影響を与えるというモデルを仮定し、ステップワイズ型の重回帰分析によるパス解析を行った(図2)。なお、母のジェンダー意識から本人のジェンダー意

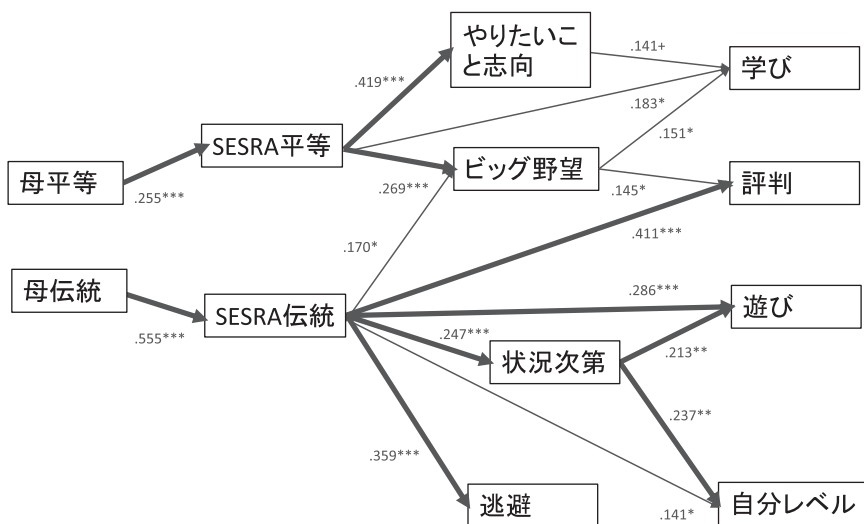


図2. 母と本人のジェンダー意識・キャリア意識・大学進学理由に関するパス図

識へのステップ、および次のキャリア意識へのステップまでは、パス図①と共通であるため、大学進学理由に関する最終ステップについて記載する。

大学進学理由に関する「学び」は、キャリアに関する「やりたいこと志向」により高められ ($\beta=.141$, $p<.10$)、「ビッグ野望」に高められ ($\beta=.151$, $p<.05$)、また「SESRA平等」に高められていた ($\beta=.183$, $p<.05$)。

「評判」は、「SESRA伝統」によって強く高められ ($\beta=.411$, $p<.001$)、ビッグ野望により高められていた ($\beta=.145$, $p<.05$)。

「遊び」は、「状況次第」に高められ ($\beta=.213$, $p<.01$)、「SESRA伝統」に高められていた ($\beta=.286$, $p<.001$)。

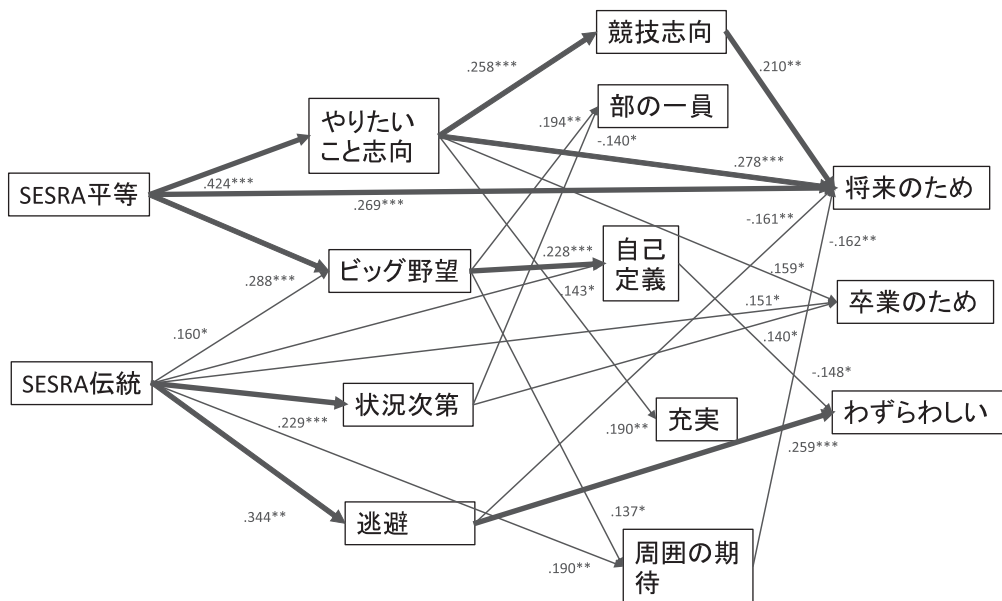
「自分レベル」は、「状況次第」に高められ ($\beta=.237$, $p<.01$)、「SESRA伝統」に高められていた ($\beta=.141$, $p<.05$)。

平等主義的性役割観は、学びのための大学に進学する志向を強めたり、キャリア意識におけるやりたいこと志向や大きな野望を持つ傾向を強め、それが大学での学び志向につながる事がわかった。

伝統主義的性役割観は、大学に進学するに当たって大学の評判を重視する傾向を非常に強めたといえた。また、大学進学を遊びのためとする傾向を強めたり、キャリア意識における状況次第という傾向を強め、それが遊びの要因および自分にあったレベルの大学だから進学したという意識を強めていたといえる。

③本人のジェンダー意識からスポーツマン的同一性・キャリア意識を経て大学学習観に至るパス解析に加えて、学生本人のジェンダー意識がスポーツマン的同一性に影響を与え、ひいてはキャリア意識に影響を与え、それがさらに大学学習観に影響を及ぼすというモデルを仮定し、ステップワイズ型の重回帰分析によるパス解析を行った(図3)。有意なパスを図に示したが、パスの本数が多いため、 β が.200以上のパスを太線で表示し、太線のパスを中心に考察する。

「SESRA平等」は、キャリア意識のうち「やりたいこと志向」を強め ($\beta=.424$, $p<.001$)、「ビッグ野望」を強めていた ($\beta=.288$, $p<.001$)。「やりたいこと志向」は、スポーツマン的同一性のうち「競技志向」を強めており ($\beta=.258$, $p<.001$)、また大学での学習観にお



ける「将来のため」を強めていた ($\beta = .278, p < .001$)。「競技志向」は、大学での学習観のうち「将来のため」を強めていた ($\beta = .210, p < .01$)。また、「ビッグ野望」は、スポーツマン的同一性のうち「自己定義」を強めていた ($\beta = .228, p < .001$)。

平等主義的性役割観を持つと、将来のキャリアに関してはやりたいこと志向を持ち、それがスポーツにおける競技志向につながり、その競技志向が体育大学での学習は将来のためであるという考え方につながるというモデルが成り立つことが示された。

「SESRA 伝統」は、キャリア意識のうち「逃避」を強め ($\beta = .344, p < .01$)、「状況次第」を強めてもいた ($\beta = .229, p < .001$)。また「逃避」は、大学での学習観における「わずらわしい」を強めていた ($\beta = .259, p < .001$)。

伝統主義的性役割観を持つと、将来のキャリアに関して考えることから逃避しがちになり、そのことが大学での学習をわずらわしいものと感じさせるというモデルが成り立つことが示された。しかしスポーツをする上での意識にはそれらの要因は直接的な関連をもたないようであった。

④本人のジェンダー意識からスポーツマン的同一性・キャリア意識を経て大学進学理由に至るパス解析

さらに、学生本人のジェンダー意識がスポーツマン的同一性に影響を与え、ひいてはキャリア意識に影響を与え、それがさらに大学進学理由に影響を及ぼすというモデルを仮定し、ステップワイズ型の重回帰分析によるパス解析を行った(図4)。有意なパスの本数が多いため、 β が.200以上のパスを太線で表示した。なお、性役割からキャリア意識へのステップ、およびキャリア意識からスポーツマン的同一性へのステップは、③のパス解析と共通であるため、ここでは主として最終ステップである大学進学理由に関して考察する。

「SESRA 伝統」は、大学進学理由における「評判」を強めており ($\beta = .301, p < .001$)、「遊び」も強めていた ($\beta = .231, p < .01$)。また、「SESRA 伝統」がキャリア意識における「状況次第」を強め ($\beta = .229, p < .001$)、それが大学進学理由のうち「自分レベル」を強めていた ($\beta = .236, p < .01$)。

伝統主義的性役割観を持つと、大学に進学する際

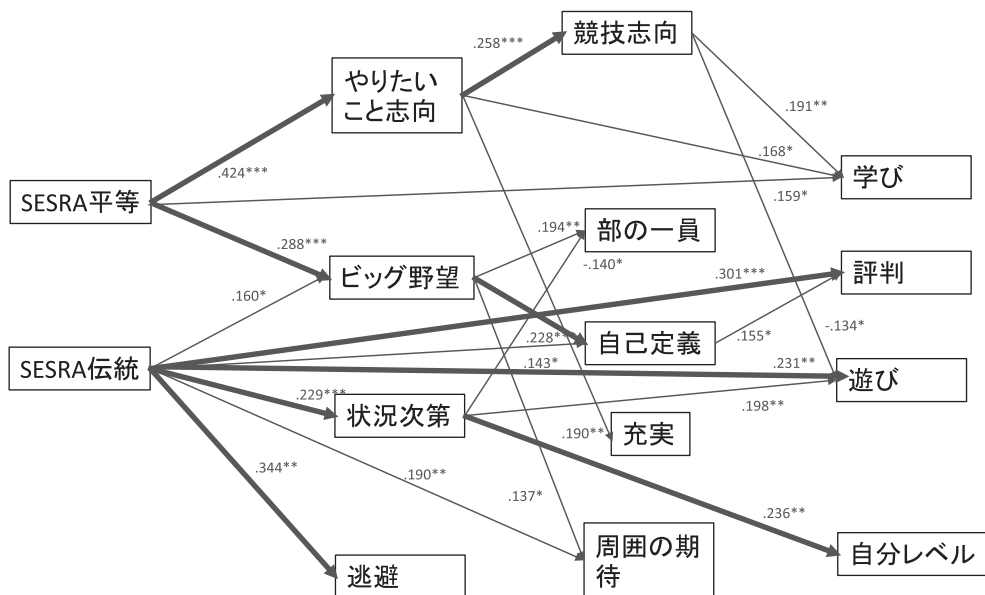


図4. 本人のジェンダー意識とスポーツマン的同一性・キャリア意識・大学進学理由に関するパス図

には大学の評判を重視した学校選びを行い、また学生生活においては遊びたいという希望を持つようである。おそらく、将来は専業主婦になることを想定しており、大学で学ぶ内容そのものが将来の自分の仕事や立場等に関連することはないと考えて、このような結果になると推測される。また、伝統的性役割観を持つと、将来のキャリアに関しては、配偶者の選択など予測困難な要因によって決まると考えているのか、状況次第と考えているようである。そのような思いが、大学進学時には将来のことや学ぶ内容というよりも現在の自分のレベルに見合っているかという観点から選択を行うことにつながるのであろう。

まとめ

1. 母が平等主義的な性役割観を持っていると娘も平等主義的な性役割観を持つようになり、将来のキャリアを考える際には自分のやりたいことを追求しようと考え、そのために大学はきちんと卒業し、大学では将来のためになるよう学ぼうという意識を持つ。

2. 母が伝統主義的な性役割観を持っていると娘も伝統的な性役割観を持つようになり、将来は専業主婦になって家庭に入る前提で、キャリアに関しては状況次第と考えたり、逃避的な考えを持ったりするといえる。またそのことによって、大学での学習をわざわざしいものと思ったり、自分の将来のためにはならないものと思ったりする。

3. 平等主義的性役割観は、学びのための大学に進学する志向を強めたり、キャリア意識におけるやりたいこと志向や大きな野望を持つ傾向を強め、それが大学での学び志向につながる。

4. 伝統主義的性役割観は、大学に進学するに当たって大学の評判を重視する傾向を非常に強めたといえた。また、大学進学を遊びのためとする傾向を強めたり、キャリア意識における状況次第という傾向を強め、それが遊びの要因および自分にあったレベルの大学だから進学したという意識を強めていた。

5. 平等主義的性役割観を持つと、将来のキャリアに関してはやりたいこと志向を持ち、それがスポーツにおける競技志向につながり、その競技志向が体育

大学での学習は将来のためであるという考え方につながる。

6. 伝統主義的性役割観を持つと、将来のキャリアに関して考えることから逃避しがちになり、そのことにより大学での学習がわずらわしいものを感じられたりするが、スポーツをする上での意識にはそれらの要因は直接的な関連をもたない。

7. 伝統主義的性役割観を持つ学生は、専業主婦になるならば大学の学習内容は将来の自分の仕事に関連しないと考えるのか、大学の評判を重視した学校選びを行い、大学では遊びたいと希望するようである。将来は配偶者の選択など予測困難な要因で決まると考えているのか、キャリアは状況次第と考えているようである。

最後に：女性の生き方に正解・不正解はない。しかし本研究から得られた上記の結果に基づけば、伝統主義的性役割観を持つ学生に関しては、大学での学習について、職業や収入につなげるのではなく、自分の将来にどう役立てたいかをより明確にすることが、大学生活をより有意義にするといえるだろう。

引用文献

- 安達智子(2004) 大学生のキャリア選択—その心理的背景と支援— 日本労働研究雑誌, 533, 27-37.
- 順天堂大学マルチサポート事業(2013) 女性アスリート戦略的強化支援方策レポート 順天堂大学マルチサポート事業.
- 小林利行(2013) 「結婚」や「家事分担」に関する男女の意識の違い～ISSP国際比較調査(家庭と男女の役割)・日本の結果から～ 放送研究と調査, April 2013, 44-58.
- 国立社会保障・人口問題研究所(2005) 第13回出生動向調査
- 厚生労働省(2013) 厚生労働白書2013年度版.
- 三保紀裕・清水和秋(2011) 大学進学理由と大学での学習観の測定—尺度の構成を中心として— キャリア教育研究, 29, 43-55.
- 鈴木淳子(1994) 平等主義的性役割態度スケール短縮版(SESRA-S)の作成 心理学研究, 65,

34-41.

高橋康二(2014) 特集「先生」の働き方:教師の世界 講師・インストラクターの労働市場 日本労働研究雑誌, 645, 38-41.

高見和至, 岸 順治, 中込四郎(1990) 青年期のスポーツ経験と自我同一性形成の諸相. 体育学研究, 35, 29-39.

山田昌弘・白河桃子(2008) 「婚活」時代 ディスカバー携書